



文化財

守り、活かし、次代へ
私たちの
まちの

四日市市文化財
保存活用地域計画

本市を紹介する際に引用される、大入道や四日市萬古焼、港の情景や、かぶせ茶を生産する水沢の茶畑の風景。これらはすべて四日市を四日市たらしめている本市の文化であり、財産です。「四日市の文化財」を守り伝えていくために、所有者・管理者だけでなく、地域や行政などが多様に関わりを持ち、文化財を保存し、広くまちづくりに活かす取り組みをまとめたプランが、今回紹介する「四日市市文化財保存活用地域計画」です。この計画を通して、私たちのまちの象徴を次世代につなぐ方法を考えてみませんか。

文化財ってどんなもの？

文化財保護法で規定する文化財は以下の6類型です。その他に埋蔵文化財、文化財の保存技術があります。

- | | | |
|---|--|---|
| 有形文化財
(例) 末広橋梁(旧四日市港駅鉄道橋)、慈恵大師坐像(垂坂観音寺) | 無形文化財
(例) 四日市萬古焼(手ろくろ成形)、日永うちわの製作技術 | 民俗文化財(有形・無形)
(例) 大入道山車、鯨船行事、大念仏 |
| 記念物(史跡・名勝・天然記念物)
(例) 東阿倉川イヌナシ自生地、伊勢安国寺跡 | 文化的景観
本市には指定なし。
(例) 宇治の文化的景観(京都府) | 伝統的建造物群
本市には指定なし。
(例) 亀山市関宿 |

クイズに挑戦！ あなたはどれだけ知っている？四日市のお宝のこと

- Q1 本市唯一の国指定史跡**久留倍官衙遺跡**。古代の役所跡とされるこの場所とゆかりがあると言われる古代最大の内乱は□□の乱。
- Q2 さまざまな食虫植物や東海地方の固有種など、珍しい植物の宝庫となっている**御池沼沢植物群落**。なんと読む？□□□□□□□□しよくぶつぐんらく
- Q3 建設当時、そのハイカラな様子から「日本一の村役場」と言われた**旧四郷村役場**。建設に当たって多額の寄付金を投じた人物は、伊藤□□(十世)。
- Q4 **日永の追分**の「追分」とは、道が二つに分かれるところを意味します。日永の追分は、江戸と京を結ぶ東海道と、□□街道との分岐点に当たります。
- Q5 **志氏神社古墳**は市内で唯一確認されている□□□□墳で、市指定有形文化財である鏡や勾玉が出土しています。
- Q6 文明2(1470)年に**田原美作守忠秀**が築城したと伝わる**浜田城跡**は現在、□□神社になっています。
- Q7 神明社(堂ヶ山町)の境内に神木としてまつられている**大樟**は、樹齢、□□□年と推定される市内で最大のクスノキ。本市ではクスノキを「市の木」に選定しています。
- Q8 **旧東洋紡績株式会社富田工場原綿倉庫**は□□□造りで、店舗などとして使われています。
- Q9 **鳥出神社の鯨船行事**は、平成28年に全国33の「山・鉦・屋台行事」の一つとして□□□□無形文化遺産に登録されました。
- Q10 本市には現在(令和5年11月)国・県・市の指定等文化財がおよそいくつあるでしょうか。①約50件 ②約100件 ③150件以上

答えは次のページ

四日市市文化財保存活用地域計画とは

本市では、貴重な文化財を後世に残していくために、文化財に人々の関心を集め、その価値を知ってもらうとともに、文化財の保存と活用を図るため、「四日市市文化財保存活用地域計画」(以下、「地域計画」という)を作成しました。これは、本市における文化財の保存と活用の長期的な基本方針を定めるマスタープランでもあり、その方針に従って短期的に実施する事業を定めるアクションプランでもあります。

地域計画に定める取り組みを推進することで、市民の本市に対する誇りと愛着をより深めるとともに、まちの魅力向上につなげていきます。

四日市の文化財について、ホームページはこちら

関連文化財群と文化財保存活用区域の設定

効果的な文化財の保存と活用のため、各地区に残る歴史文化を整理し事象を集め、本市の歴史文化の特徴をまとめました。それをもとに、6つの関連文化財群と、2つの文化財保存活用区域を設定しています。

関連文化財群

① 東海湖由来の湿地の植物



御池沼沢植物群落

市内の丘陵地には600万年前から100万年前まで存在した東海湖(東海湖盆)に由来する湿地が多くあります。湿地には東海地方の固有種が多数生育しています。

③ 中世の城跡 北勢四十八家と赤堀三家



浜田城跡

中世、この地方は北勢四十八家といわれる土豪達が群雄割拠し、市内には約40カ所の城館がありました。中でも赤堀三家は赤堀・浜田・羽津に城を築き、北勢地方で勢力を張ったと語られています。

⑤ 産業都市四日市の礎となった近代産業



旧四郷村役場

幕末より、四郷地区をはじめとして本市では近代産業が盛んとなり、四日市港の発展や鉄道の整備による輸送力の増強に伴い近代化が進み、産業都市となりました。

② 古代史の舞台 久留倍官衙遺跡と朝明郡



久留倍官衙遺跡

古代の四日市は、北部は朝明郡、南部は三重郡に属していました。久留倍官衙遺跡は、朝明郡の役所の遺跡であり、壬申の乱や聖武天皇東国行幸に関わる古代史の舞台となりました。

④ 近世東海道と四日市宿



日永の追分

江戸時代、四日市宿は東海道の43番目の宿場となり、人・物の往来が活発でした。また、富田は立場^{たてば}、日永は間の宿としてにぎわいました。日永の追分は伊勢への参宮道との分岐点でした。

⑥ 勇祭! 鯨船行事



鳥出神社の鯨船行事

北勢地方に現存する陸上の模擬捕鯨行事です。鯨を豊饒の象徴とみなし、これを仕留める演技を行うことによって、大漁や豊饒を祈願するこの地域に伝承する行事です。

※旅人などが休息する茶屋のこと

文化財保存活用区域

① 近代産業発祥の地 四郷の歴史文化

区域内には関連文化財群5「産業都市四日市の礎となった近代産業」の関連文化財が集中しています。また、伊勢安国寺に由来の寺社や仏像、大念仏などの祭礼行事もあります。地区北側の小高い丘陵地は風致地区に指定され、自然と街並みが一体となった景観を形成しています。



大念仏



② 漁師町の歴史文化 富田、富洲原

① 近代産業発祥の地 四郷の歴史文化

② 漁師町の歴史文化 富田、富洲原

区域内に富田、富洲原の漁師町の街並みが残っています。また、関連文化財群6「勇祭! 鯨船行事」に含まれ、ユネスコ無形文化遺産にも登録されている鳥出神社の鯨船行事があるほか、石取祭やけんか祭りなどの祭礼行事、アミカンなどの国登録有形文化財(建造物)があります。



富田の石取祭

本市の文化財の特徴と可能性

1996年の文化財保護法の改正で、既存の指定文化財に加え、登録文化財という制度ができました。これは、緩やかな規制の中で活用しながら守る文化財のあり方を制度化したものです。改正後は着実にその数を増やし、市民にとって文化財が身近な存在になりました。地域計画は、この流れをさらに促進しようというものです。

地域計画の検討では、まず未指定・未登録の文化財も含めてどの地区にどんな宝物が眠っているのか調査しました。四日市は古くからの歴史文化が蓄積し、県内で最も産業が発展したことで、未広橋梁や潮吹き防波堤などユニークな近代化遺産が厚い層を作っています。そして、近代化の過程で建設された土木構造物や工場、産業の発展に貢献した人々の邸宅が数多く残っています。今回の地域計画では、関連文化財群として「⑤産業都市四日市の礎となった近代産業」が盛り込まれ、それが集積した四郷は文化財保存活用区域になりました。豊かな自然と古くからの歴史文化、そして近代化遺産という四日市の特徴がよく反映された地域計画になっています。

これを受けて、三重大学も市と共同で富田や四郷、東海道沿いで歴史的建造物などの調査を開始しました。地域計画策定をきっかけとして、より多くの注目が四日市に集まることを期待しています。



調査に参加する学生たち

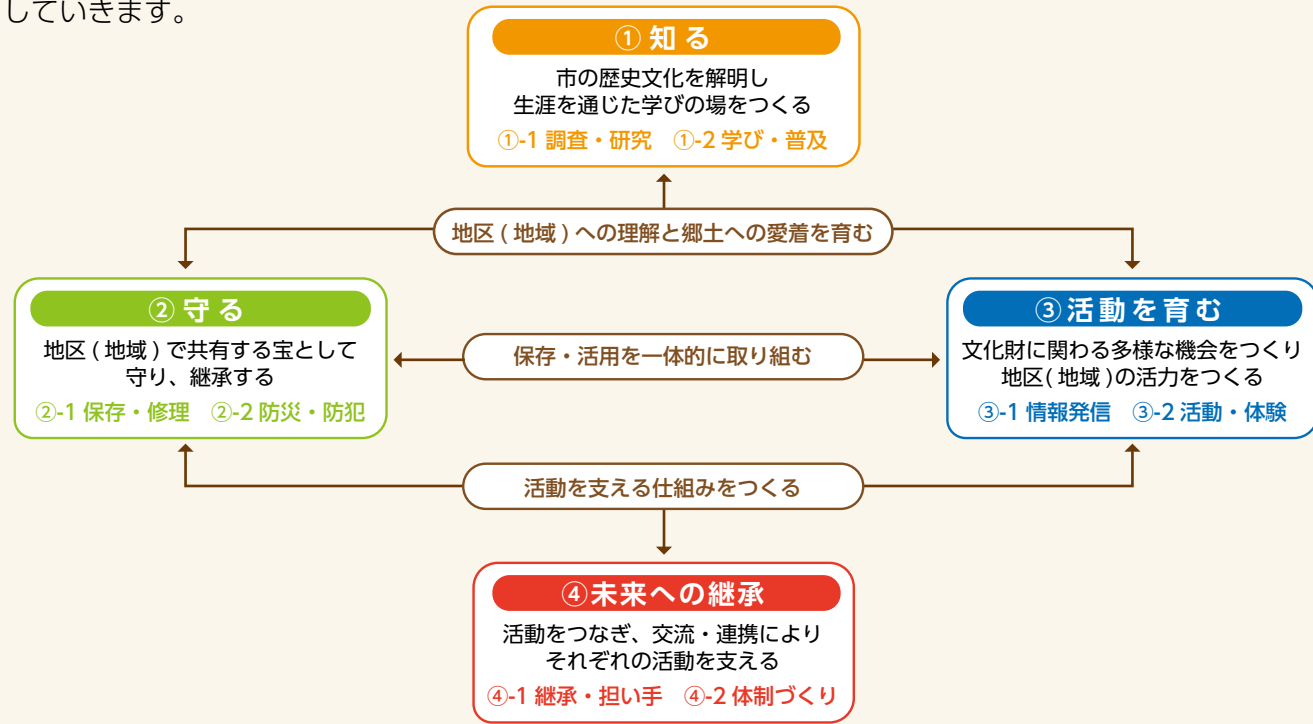


地域計画策定協議会委員
三重大学工学研究科
准教授 大井隆弘さん

クイズの答え Q1. 壬申 Q2. おいけしょうたく Q3. 伝七 Q4. 伊勢 Q5. 前方後円 Q6. 鷯森 Q7. 800 Q8. レンガ Q9. ユネスコ Q10. ③ (158件)

文化財の保存・活用の方策

文化財の保存・活用を進めるための方策として、①知る、②守る、③活動を育む、④未来への継承、の4つを定め、文化財を地域の宝として守ることに加え、多様な活動を育むことで活用し、未来へ継承していきます。



市民の一人として文化財を考える

地域計画の策定協議会に、専門家ではない市民として参加させていただきました。「文化財って何?」というところからでしたが、このまちで育ち、住む者として、意見を言うことができればと思いました。協議会に参加することで、新型コロナによるイベント空白期や担い手不足などの問題から、文化財を守り伝えていくことの難しさを感じました。

私自身は、子どもの頃から文化財だと意識することもなくお祭りのたびに大入道を見てきました。大入道は子ども心には少し怖かったですが、楽しかったお祭りの記憶に結び付いています。他にも、我が家の食器の多くを購入してきたばんこ祭りなど、地域の行事は育ったまちの思い出を形作っています。今、いろいろなものが全国的に標準化して行って、どこに行っても同じような街並み、同じようなお祭りを目にするのが多い気がします。ここでなければ見られないという、育った場所の思い出は、子どもたちにとっての根っこになると思います。だからこそ地域の文化財を大切に引き継いでいきたいですね。



地域計画策定協議会委員
中森ゆき子さん

もっと文化財を身近に! 各種イベントに参加してみませんか

久留倍官衙遺跡まつり

時 11月11日(土) 9:00から
※雨天時は11月12日(日)
所 久留倍官衙遺跡公園
定 150人程度 料 無料

第12回 郷土が誇る芸能大会

時 11月19日(日) 13:00から
所 文化会館第2ホール
料 無料

四日市市文化財保存 活用地域計画シンポジウム

時 12月17日(日) 13:30から
所 総合会館8階 視聴覚室
定 120人 料 無料

文化財を保存し活用する意義について、話し合っていました

(左から)
地域計画策定協議会 会長 四日市大学副学長 鬼頭浩文さん
同大学総合政策学部特任准教授 浅井雅さん
同大学総合政策学部特任准教授 倉田英司さん



鬼頭: 保存維持にかかる経費を考えると、地域のお宝をすべて指定文化財にすることはできません。指定や登録の対象にはならないけれども、地域にとって大切なものを有効活用する形を取りながら保存する計画を作る、それが地域計画です。例えば歴史的価値のある倉庫街に店舗を入れて集客すれば、文化財を活用できているということになります。あるいはそこまでビジネス化しなくても、旧四郷村役場でセミナーや演奏会を開催するなど、文化財を活用すれば、財政的支出をする理由になるでしょう。

倉田: 活用の例で言うと、亀山市の関宿は住民の意識の変化の点で興味深い例だと思います。旧東海道の町並みを残す関宿は、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されていますが、当初は住民の中に消極的な意見もあったそうです。町並みを維持していくために、生活面に制限が生じることや、観光地化してしまうことへの懸念から生まれた意見です。でも、この10年、20年で住民の意識が変わってきたように感じます。まちの文化財に対する市民意識が熟成し、みんなの重要な資源なのだと認識されるようになったと思います。

浅井: 私は子どもたちが文化財に触れる機会を作ることが大切だと思っています。今の子どもたちは、核家族化や伝統行事の減少で古いものに触れる機会や、年配の人と関わる機会が少なくなっています。子どもの頃は、文化的価値の意味を知らなくても、身近にあって、触れることができればいいのです。継承に携わる機会がないと、文化財が自分とは関係ないものになってしまう。文化財に目を向けずに子どもたちが育ってしまう社会、それを憂慮しています。

倉田: 子どもたちが参加して、文化財を継承するきっかけを作ることが大切ですね。

鬼頭: 文化財とコミュニティの関連を示す例では、東日本大震災の後、東北地方では祭りで住民がつながっている地域ほど、復興が早かったという事例がありました。震災後、がれきの下から掘り起こされた獅子頭を用いて獅子舞を復活させるなど、文化財は復興のシンボルになったのです。

浅井: コミュニティの再生にとって文化財は重要だという事例ですね。

鬼頭: 地域に根付いた祭りは、大人になって地元を出た人も、祭りの時期には帰ってきて祭りに参加するということがあります。そして戻ってくると、「どここの息子さん」ということを近所の人知っている。そういう地域のつながりは、祭りという文化財が継承されているからこそ生まれるものです。

浅井: 自分と社会のつながりの最小の単位は地域コミュニティです。成人したらその外に出ていくとしても、子どもの時に地域コミュニティに属した経験があれば、どこに行っても、自分の地域における役割を理解できると思います。身近な文化財は人や社会とのつながりを学ぶきっかけになる。それは、目には見えない文化財の活用の形なのではないでしょうか。



地元の小学生に向けた富田鯨船行身体験